

国際共創学部AO マルデス入試
理解力・思考力審査（サンプル問題）

4 題の問題 A、B、C、D から 1 題の問題を選んで解答しなさい。

問題 A 次の美術批評に関する文章を読み、以下の問いに答えなさい。

It is much to be regretted that so much of the apparent enthusiasm for art at the present day has no foundation^{*1} in real feeling. In this democratic age of ours men clamour^{*2} for what is popularly considered the best, regardless of their feelings. They want the costly, not the refined^{*3}; the fashionable, not the beautiful. To the masses, contemplation^{*4} of illustrated periodicals^{*5}, the worthy product of their own industrialism, would give more digestible food for artistic enjoyment than the early Italians or the Ashikaga masters^{*6}, whom they pretend to admire. The name of the artist is more important to them than the quality of the work. As a Chinese critic complained many centuries ago, "People criticise a picture by their ear." It is this lack of genuine appreciation that is responsible for the pseudo-classic horrors^{*7} that to-day^{*8} greet us wherever we turn.

Kakuzo Okakura, *The Book of Tea*, G. P. Putnam's Sons, London and New York, 1906, p. 115-116

*1 foundation 基礎、土台、根拠

*2 clamour 騒ぎ立てる、強く要求する

*3 refined 洗練された、上品な

*4 contemplation 鑑賞、熟考

*5 periodicals 雑誌などの定期刊行物

*6 Ashikaga masters 足利時代の名匠たち

*7 the pseudo-classic horrors 擬古典的で恐ろしい作品

*8 to-day 原書の綴りのとおり、today と同一

(1) テキストの要点を日本語で 200 字程度にまとめなさい。

(2) テキストの要点について、あなた自身の意見を日本語で具体例をまじえて 300 字程度で述べなさい。

問題 B 次の文章を読み、以下の問いに答えなさい。

I 人間主義茶の一碗

茶は初めは薬だった、後に飲み物になったのです。中国では、八世紀に興味の良いたしなみの一つとして、詩を作ったり詠んだりする教養の一つに加えられました。十五世紀になると、日本で、美を礼拝する宗教——茶の湯チャイイスムに高められました。茶の湯は、日常生活の卑小な事物のなかに美をみつつけ賞めでる一種の祝祭であります。それは、純粹と調和を説き、お互いに寛ゆるし合い愛し合うことの神秘、社会秩序のなかにあるロマンチックなものへの愛を教えます。なによりも〈不完全〉さを崇拜し、人生という不可能に満ちた世界のなかで、なにかを成し遂げるようとする心優しい試みなのです。

〈茶の哲学〉は、その言葉からふつう考えられるような、単なる美の観照に関する哲学なのではありません。それは倫理学と宗教と連動して、人間と自然に関するわたしたちの考えか

たの総体を表明する哲学だからです。それは衛生学でもあります、清潔を強調するからです。それは経済学でもあります、複雑で高価なものより、質素であることに悦びよろこを求めているからです。宇宙に対してわたしたち人間がいかに小さいかをはつきりと示してくれるという点では、心の幾何学でもあります。茶の世界に浸れば、みんな風流の貴族になれるという点では、東洋民主主義のほんとうの精神を体现してもいます。

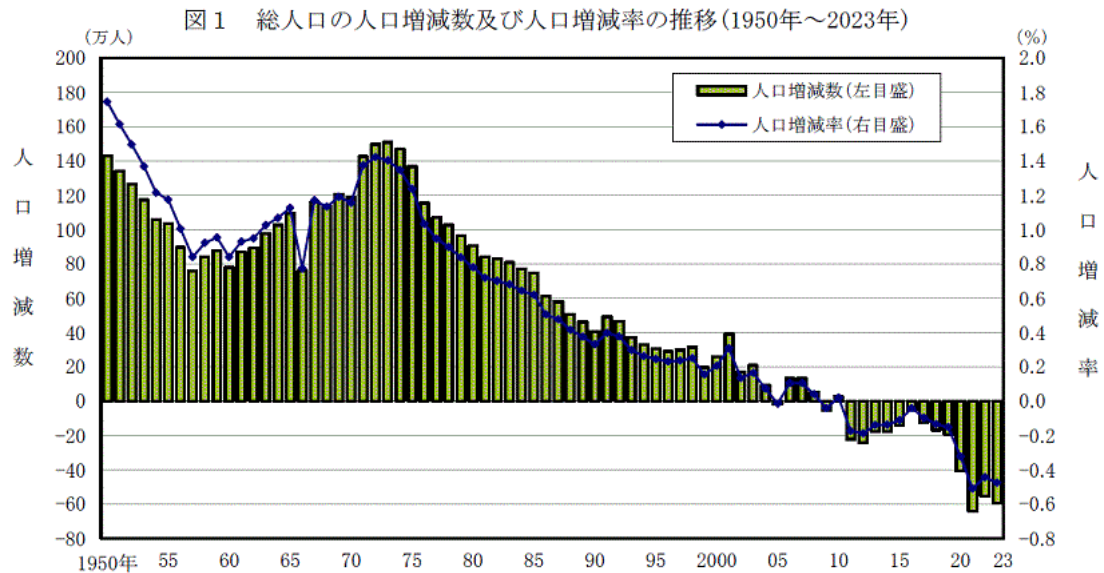
日本が世界の他の国ぐにと交流を絶っていた長い孤立の期間、内省の機会としては非常に意義のあった時期であり、そのあいだに茶の湯は大きな発展を遂げました。わたしたちの家庭生活と習慣、服装そして料理、陶磁器、漆器、絵画——わたしたちの文芸そのもの——すべて、茶の湯の影響を受けていないものはありません。日本の文化を勉強しようとすれば、誰もこの茶の湯の存在を無視することはできないでしょう。茶の湯の影響は高貴な身分の人たちの寝室の趣味にも及び、また身分の低い人びとの住まいにも浸透しています。農民たちも花を活けることを心得ており、卑しい労働に従事する者でさえ、石や水の流れを敬うことを知っています。慣用表現の一つですが、人生のいろいろな場面で起るちよつと真面目で滑稽なことがらに機微の感覚を欠いた人を指して、よく、あの人は「茶気がない」などと言ったりします。また、日常の悲劇には無関心で、繊細さを欠いた芸術愛好家が感情の抑えどころを間違えてハメをはずしたりすると、彼には「茶気がありすぎる」などと非難したりします。

出典：岡倉覺三著、木下長宏訳「人間主義茶の一碗」『新訳 茶の本』明石書店、2013年、初版 1906 年、13～15 頁。

- (1) テキストの要点を日本語で 200 字程度にまとめなさい。
- (2) テキストの要点について、あなた自身の意見を日本語で具体例をまじえて 300 字程度で述べなさい。

問題 C

図1は、1950年から2023年までの日本の総人口の人口増減数及び人口増減率を示したものである(総務省統計局より)。図1を見て以下の問に答えよ。



注) 人口増減率は、前年10月から当年9月までの人口増減数を前年人口(期首人口)で除したものと

総務省統計局 HP(<https://www.stat.go.jp/data/jinsui/2023np/>)より

- (a) 日本の総人口が最大であったのはいつごろと考えられるか?
- (b) 1973年付近で人口増加が最大となっている。この理由について考察せよ。
- (c) 1950年～1957年の間、人口増減数は年ごとに小さくなっている。この理由を考察せよ。
- (d) 現在、日本では人口が減少し続けている。世界では、日本よりはるかに人口の少ない国が数多くあるにもかかわらず、日本の人口減少が問題視されている理由を述べよ。

問題D 次の図1および図2は、東京を取り巻く地域における市区町村別の人口増減率を2つの時期について示したものである。この2つの図から、どのような変化の傾向が読み取れるか、箇条書きにして説明しなさい。

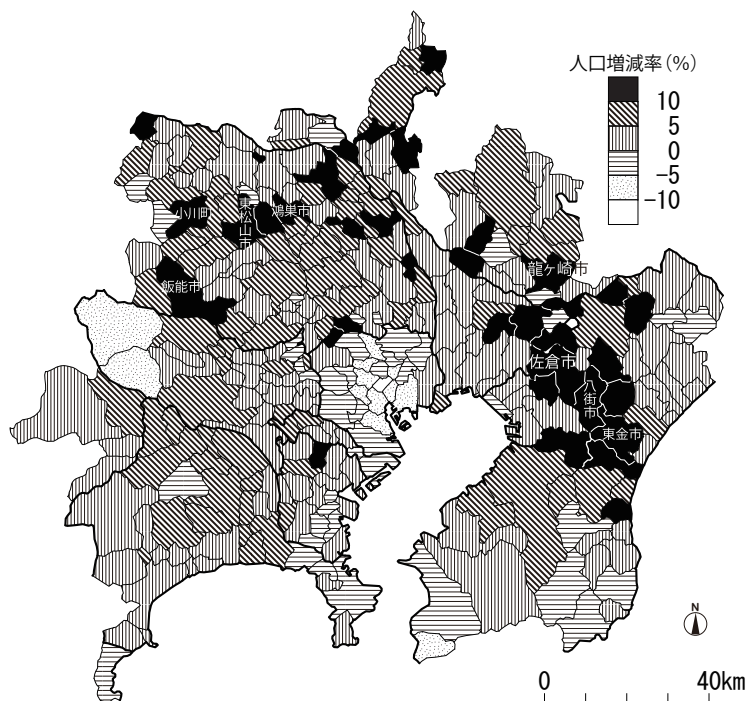


図1 関東大都市圏における市区町村別人口増減率(1990～95年)

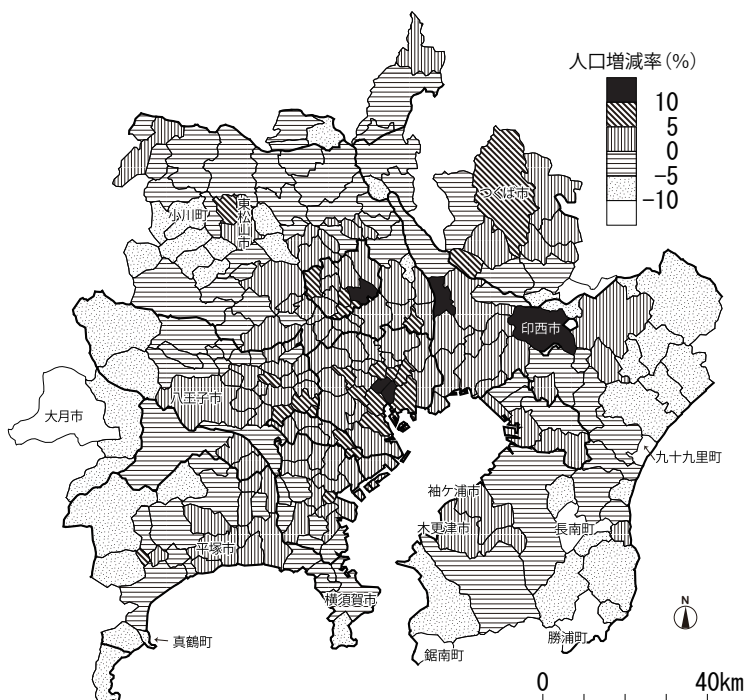


図2 関東大都市圏における市区町村別人口増減率(2015～20年)

注：関東大都市圏は2020年の範囲に基づく。
(資料)『国勢調査報告』より作成。